

---

# ねこの思い出 8 「隣の松は白い」

西宮尚

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ねこの思い出8「隣の松は白い」

### 【Nコード】

N5841D

### 【作者名】

西宮尚

### 【あらすじ】

18歳8ヶ月で逝ってしまったねこの思い出をつづります。長い間空き地だった場所に家が建ちました。その家の松の幹がどんどん白くなっていて…

(前書き)

18歳8ヶ月で逝ってしまったたねこの思い出をつづります。  
そのねこは、最高にかわいい容姿と最悪な性格をしていました。

うちの前の土地は、バブル期に買い占められて、長い間空き地になっていた。

そこは、ねこの格好の遊び場だった。

よく鳥が来て、それを狙うハンターねこの姿が見られた。

一度、ねこは、そこでオナガのひなを獲ってきた。

オナガは、見た目はかわいいが、鳴き声は耳をつんざく「ギャーッ」というものだ。

ひながギャーッつと鳴き、それを心配する親鳥がギャーッ、ギャーッつと空を飛んでいる。

それは、地獄のようなサウンドだった。

ねこをつかまえて、くわえたひなを放すまで、それは続いた。

私たちの家族は、ねこの獲ってきたものを穩便に、元に返すようにしている。

雀のひなを獲ってきた時は、私が独り立ちするまで育ててから放した。

他にもバッタやかまきりなどの虫もいろいろいて、その空き地には小さな自然があった。

その空き地に、家が建つことになった。

それは残念なことであった。しかし、その家の前に松の木を植えたことで状況が変わった。

その松の木は、直径20センチぐらいの幹が斜めになっている。

それは、品の良い盆栽を大きくしたようなものであった。

それを見て、近くにいった確かめて、確信した。

あの高そうな松は、絶対にねこの爪とぎになる！

どこをどう見ても、ねこが爪とぎに良い幹の太さと傾斜があった。

松が植えられて一週間。

松の一部分の幹が確実に白くなってきていた。

そこは、ねこが後ろ足で立って、ちようど手があたる部分であった。

その松の白い部分は、徐々に増えていった。

セレブそうなその家の家族は、私たちに何の苦情も言わなかった。

- ( n . n ) -

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5841d/>

---

ねこの思い出8「隣の松は白い」

2010年10月11日22時03分発行